

わたしたちは、信頼と希望と愛の輪で社会をつなぎます

SSKP いずみ

No.
156

2010年 3月

社会福祉法人 泉会

法人本部
泉の家

〒157-0076 世田谷区岡本2丁目33番23号
☎03(3417)3451(代) ☎03(3426)5359
izumi@izumikai.jp
http://izumikai.jp/izumi/

日の出舎

〒190-0182 西多摩郡日の出町平井3030番
☎042(597)1451(代) ☎042(597)2205
info@hinodesha.org
http://hinodesha.org/

岡本福祉
作業ホーム

〒157-0076 世田谷区岡本2丁目33番24号
☎03(3415)3366(代) ☎03(3415)4976
okamoto@izumikai.jp
http://izumikai.jp/okamoto/

岡本ホーム
玉堤分場

〒158-0087 世田谷区玉堤2丁目3番1号
☎03(5707)9431(代) ☎03(5707)9433
tamatatumi@izumikai.jp
http://izumikai.jp/tamatatumi/



建物も完成し、いよいよ「新・泉の家」がスタートします。

● 本年の聖句

主は、従う人に目を注ぎ

助けを求める叫びに耳を傾けてくださる。

主は、助けを求める人の叫びを聞き

苦難から常に彼らを助け出される。

主は、打ち砕かれた心に近くいまし

悔いる霊を救ってくださる。

(詩篇34章16～19節)

相手の気持ち



理事長 橋向敏治

待望の『泉の家』が2010年3月27日利用者の喜ぶ中で開所式を迎えます。これからが福祉サービスの実感でき、地域に根付いた、必要とされる通所施設に生まれ変わります。

この一年間6階建ての施設の取り壊し、そして建設のため多くの近隣の方々に騒音などの迷惑をお掛けしました。この場を借りてご協力を頂きました御礼を申し上げます。

楽しい思い出よりも苦しい思い出の経験は、人生に大切なものです。客観的に自分を見つめ、自分の良いところに焦点をあて、そこに磨きをかけると自分で欠点と思うことでも魅力になります。真面目さ、正直さが、ないがしろにされる昨今の風潮は悲しいことです。福祉という仕事は、相手の立場に立って気持ちを想像したり、共感することが不可欠です。『相手の気持ち』を想像しているうちに、中立的な、自分中心でないものの見方も養われてきます。効率と能率化が叫ばれている現在、世の中に温かい心を伝えられることは、大きな事業です。福祉の仕事を通じて、心を養うことが出来れば天職となります。何が真実かを常に考え、学び、求め続けることが肝要です。皆様のご協力で『泉の家』が完成いたしました。次は『日の出舎』の再生に全力を傾注いたします。今後とも引き続きご支援をお願い申し上げます。

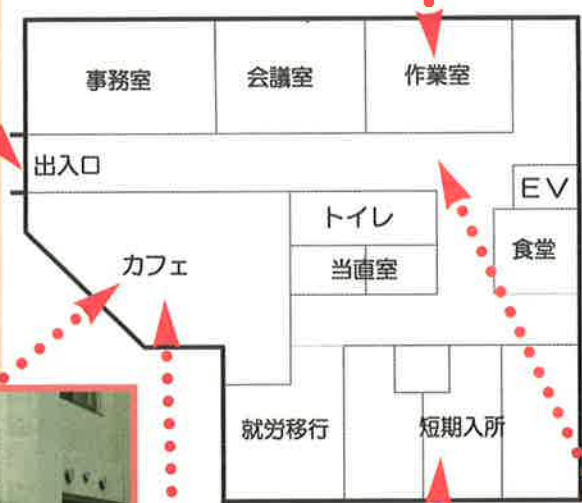
1 階 の 案 内



● 1Fのメイン玄関です。



● こちらは主に自転車作業を行います。窓の外には十分な駐輪スペースも。



短期入所室と、就労移行活動で行うカフェがあります。



● 外にはパラソルを置いて、オープンカフェにします。



● 小さな落ち着いたあるカフェです。



● 短期入所は和・洋室が計3室あります。

新たな事業に向けて

2010年1月29日。空は澄み渡り、真つ青な快晴の日を迎えました。スッキリと気持ちのよい朝です。

2007年度より、泉の家の改築計画を立案し、2009年度より具体的に改築工事を行なってきました。本日、改築工事の完了に伴い「引渡し式」が厳かに、そして慎ましく行なわれました。

施行業者の松井建設（株）東京副支店長の小林様の挨拶。橋向理事長の挨拶。立会人には、設計の（株）広建設計、村山課長。そして改築工事により、代替地で活動を続けている利用者の方々や職員などが参加しました。

やっと、この日を迎える事ができました。感無量です。

式の後には、見学会をいたしました。岡本自治会、加賀見会長や近隣の方も来ていただきました。

この3年間、全力で走り続けました。東京都や世田谷区の担当者の方、いずみ友の会・ボランティアの方々、解体工事等で

大変ご迷惑をお掛けした近隣の方々など、その都度、多くの方々に支えられ、助けられてここまで来たことを、心より感謝いたします。

新しい泉の家は、白をベースにした建物です。この号が発行される頃には、4月の事業開始・開所に向けて、職員は引きつった青白い顔をしていることでしょう。この白い泉の家を、利用される方々と一緒に、いろいろな色に色付けができることを楽しみにしています。

事業運営では、今まで以上に責任を強く感じています。特別支援学校を卒業し、社会人となり、利用される方々がいます。2年後には成人式も迎えます。4月から、新しい泉の家で活動します。利用される方も職員もピカピカの1年生です。ご迷惑をお掛けすることもあると存じますが、関係する全ての方々と、力を合わせ活動します。皆様からの、ご指導や支援を、強く賜りたく、お願いを申し上げます。（保坂 俊晴）

各事業の案内

2010年4月より現行の就労継続支援B型に加え、待ちに待った新しい建物での活動が始まり、現在通所されている利用者だけでなく、4月より新規の利用者も加わります。

利用される皆様が、安全に安心して泉の家で過ごしていただけるように、泉の家では各事業内容をこのように計画しています。

● 就労移行支援

カフェでの接客業務を行うことで、就労に必要なスキルを身に付けられるように支援します。また、関係機関や企業の方に協力を仰ぎながら、研修会等を実施し、就労への意欲を高める機会を設けるだけでなく、情報収集や実習・就職受入れ先の確保に努めます。

● 就労継続支援B型

現在実施している作業活動をより充実させます。

なかでも、今年度より生産・販売を始めた大用のクッキーは種類・生産数を増加させ、売上げ計画に基づき、工賃アップを目指します。

● 生活介護

利用者個々のニーズや障がい特性に合わせて、グループに分かれて、身体の機能維持や創作活動・レクリエーション・外出等の活動を提供し、また必要に応じて、入浴・排泄・食事等の介助を行います。

● 短期入所・日中一時支援

現在は、世田谷区より隣接の岡本福祉作業ホームの2室をお借りして事業を実施していますが、4月より3床で実施となります。

設備面では新しくなるとはいえ、事業実施上の制限もでくるとは思いますが、少しでも利用を希望される方のニーズにお応えできるようにしていきます。（菅原 隆成）

3 階 の 案 内



● 食堂の奥には開放的なルーフバルコニーがあります。



● オール電化の厨房です。



日当たりの良い食堂と、就労継続Bの犬クッキー専用作業室があります。



● 眺めの良い3Fにある食堂です。



● 3F作業場では犬クッキーをつくります。



2 階 の 案 内



● こちらは男子・女子・多目的トイレがあります。



● 廊下側に大きな窓があるスタッフルームです。



主に生活介護事業を行うフラットなフロアです。



● 日当たりの良い広々とした部屋です。



● 男女更衣室は2Fにあります。



● 2台の機械浴槽で入浴介助を行います。

日の出舎だより

「信頼関係を築くために」

日の出舎では古くから木工作業に携わっており、職人並みの作業技術を持つ利用者もいます。お客様の要望に応じる姿勢と確かな技術による製品の完成度で企業等関係機関からの信頼を得られるよう努力してきました。

昨年度、東京都森林事務所より「東京マラソン2009」でお客様に配布する拍子木の作製依頼がありました。



拍子木を磨いているところです。



東京マラソン2010の拍子木です。

ました。拍子木は東京多摩の木のPRと、夢叶いませんでしたが東京オリンピックの誘致PRを兼ねたものでした。これまでも東京都の各機関から様々な注文を頂いてきました。それらひとつひとつの受注を確実にこなし信頼を得たことで拍子木の受注につながったのではないかと思います。

2009年夏頃、東京都森林事務所担当より「東京マラソン2009」で配布した拍子木の評判が大変良く、「東京マラソン2010」で配布する拍子木を今回もつくってもらいたい」と嬉しいお言葉を頂きました。その報告を受け全体の会議

で利用者の方々に伝えたところ、拍子木の作製に関わったメンバーを中心に大変喜んでおられました。東京マラソンはテレビ中継されているので多くの利用者が観賞されたようです。拍子木作製は東京マラソンという大きなイベントの一部でしかありませんが、日の出舎にとってはしっかり計画を立てないと出来ないような大きな受注なのです。9月から拍子木のデザインを決めるべく担当者との打ち合わせが始まりました。その多くは拍子木の表面に入れるレーザー加工の部分に費やされました。試行錯誤し12月ようやくデザインが決まり、年末から加工が始まりました。

他の作業で得た売上はもちろんのこと、拍子木の売上も諸経費を差し引いた分全額利用者の方々の工賃となります。現在日の出舎で得ている売上の多くは木工作業で、その中でも官公庁からの受注が占める割合は多くなっています。利用者の方々により多くの工賃をお支払いできるよう、今後も全ての受注に対して誠心誠意対応し、信頼関係を築いていきたいと考えています。

(加藤 圭介)

玉堤分場だより

「森の児童館作業体験交流会」

毎年秋に開催される森の児童館子どもまつりに出店させて頂いているのですが、森の児童館では、そのお祭りでお店のお手伝いをする「子供スタッフ」という役割を子供達に担ってもらう活動を行っています。玉堤分場も一昨年と昨年の子供まつりで子供スタッフにクッキーを売ってもらおうお手伝いをしてもらいました。その子供スタッフの皆さんとは是非作業を通して交流しようという



上手にできるカドキドキです。

うことになり、今回の作業体験交流会へと繋がりました。

作業体験では紙作業の材料作りから始め、紙すき組とお面作り組に分かれて体験してもらいました。どちらの組も講師役の利用者に教えてもらいながら、集中して綺麗に丁寧に作っていました。完成した時の子供と利用者の顔は達成感に満ち溢れ、また、講師役以外の利用者も「頑張ったね!」「上手にできたじゃない!」と声を掛けており、とても和やかな雰囲気となりました。

このような機会を設けて頂いた森の児童館の皆様、ありがとうございました。

(伊達 紫瑞)



水が冷たいけど頑張ってます!!

岡本ホームだより

「協働する」

岡本ホームの2009年度事業計画では年間売上目標112万円、工賃目標は月平均8,800円です。多機能型となり継続Bの命題は工賃を少しでも多くすることとなり、そのために取り組み始めた作業についてお知らせします。

① 交換便收受 交換便とは世田谷区内の施設や役所間の書類を郵便ではない交換便というシステムでやりとりするものです。岡本では受託作業として利用者が鎌田の児童館へ行き交換便の收受をしています。

② 自主生産品として「かりんとう」の小分け作業があります。味はお墨付きですが、販路拡大・品質保持という課題があります。近隣福祉ショップだけでなくこのように販路を拡大する。そのような折「美味しい社会貢献プロジェクト」に参加することになりました。区内施設や作業所のクッキー・焼き菓子を、注文に応じて組み合わせ

パッケージ販売するものです。まだまだ始まったばかりですが、チャレンジを逃さないよう、いつでも注文に応じられるように生産調整をしていきたいと思っています。

③ HASIC(障害者支援情報センター)が仲立ちとなって、区内の施設・作業所が合同で作業をしています。月に一度、ライオンクラブの会報を会員に封入発送する作業で、身体・知的・精神・行動障害・高次脳機能障害等、様々な障がいのある利用者と同じ場所で一緒に作業をします。最初は岡本ホームだけのラインを組みましたが、



共同で発送作業をしています。



交換便の收受をしているところです。

回を重ねるうち他施設の方たちと一緒に、お互いの得意不得意を上手に補完して作業をするようになりました。利用者にとっては普段関わりのない方たちと作業をすることで刺激になり、職員も同様に自分の作業を振り返ったり、多様な障がいを理解する一助となるものです。工賃も通常より高いものを頂いています。

以上、どの作業も岡本ホーム単独では成しえないことばかりです。取り組みの結果、2009年12月現在の売上は1,141,849円、平均工賃は8,587円でした。

(国生 いづみ)

一九七七年十二月三日第三種郵便物認可(毎月一、二、三、五、六、七の日十八回発行)
二〇一〇年二月二十五日発行(『SKP増刊通巻四三六五号』)

縁あって泉会

◆岡本町自治会 矢野 静子

このたび「泉の家」ご竣工、そして4月には新施設オープンをお祝い申し上げます。関係者の方々のお骨折をお察しいたします。

原稿依頼を受けまして自己紹介をさせていただきます。平成13年に定年退職後下肢障害の母の介護の傍ら、退職時岡本自治会の役員の協力依頼があり受けました、役員として諸行事に参加、社協と日赤の募金活動など微力ながら協力させていただいています。



毎年恒例の防犯パトロール

泉の家さんと岡本自治会は「相互応援協定」により結ばれています。自治会では電話連絡網をつくり、災害時には応援の協力体制を整えています。例年泉の家のさんの防災訓練に役員が参加しています。また自治会の七夕祭り、盆踊り大会、防犯パトロールなど諸行事には泉の家のスタッフさんが参加してくださっています。昨年末自治会の防犯パトロールには施設長始め、職員の方々が参加してくださり、たまたま私と同じコースで当たりました。

自然環境に恵まれた岡本の地で施設利用者も一緒に交流し絆を深めています。

◆ボランティア 斉藤 昌子

新春の新たなスタートおめでとうございます。

長い胎動期を経てこの春誕生する新しい泉の家、皆わくわくする思いで待ち望んでいた事でしょう。

私がおじやましていた頃のあの楽しくて暖かな仲間も大半が夫々の道に進み始めた事を思うと、安心感と同時に一抹の寂しさも感じ、イベントのお手伝いや絵画クラブ、歌声喫茶などの活動を通しての泉の家の皆さんとの交流が懐かしく思い出されます。

いつも笑顔の方、個性豊かな方、頑張りやの方人懐っこい仲間、寂しそうな仲間そして暖かく親切な職員さん。そんな泉の家の皆様から、数多くの事を学ばせて頂きました。



泉の家凄い仲間の作品展

お蔭で私、以前よりちよつといい女になりました。桜の蕾が膨らむ頃開所する泉の家で、又多くの出会いが生まれて、心地よい温もりの輪が広がって行くことは、本当に嬉しい事です。私にとって泉の家は心のオアシス。訪れた方は皆そう感じるのでは。

◆ボランティア 渡辺 由美子

いよいよ、泉の家が岡本町に戻ってくるんですね。新メンバーも加わり、新しい建物で新たなスタートをきる泉の家に、期待が膨らみます。

まず大切なのは、人と人とのつながり合える、そして触れ合える場になる事ではないでしょうか。多くの人が、障がいを持つ人達と知り合う場や機会が無いために、特別な事のように身構えてしまったり、踏み出せないでいます。出来れば小さな子供の時

から知り合えるのが一番ですが、学校や生活のために分けられてしまいう事が多く、なかなか出会えないのが現状です。新しい泉の家が、そうした出会いの場になれば、嬉しく思います。

私自身、泉の家の中でたくさんの方と顔を合わせては束の間のおしゃべりをするのが、一番の楽しみでした。人と人との触れ合いは、きつとお互いに力を与えてくれるはずです。

最後になりましたが、私は20年程前に草木染めや手織りのお手伝いをし始めたのが、泉の家とのお付き合いの始まりでした。今は、2年半前から始めた雑貨店で、わんちゃんクッキーや縫製品を販売させて頂いています。お客様と作り手の架け橋となれるよう、心がけています。

これからも泉の家の仲間として、よろしく申し上げます。



渡辺さんのお店でパチリ